

農福連携ワイン 今季も

上山・多機能事業所 市長に完成を報告

上山市の多機能事業所「ふあーすと・すてっぷ」（安部智和施設長）が手掛けるワイン「First step」が今季も完成し、14日に関係者が横戸長兵衛市長に報告した。

社会福祉法人友愛会（山形市、荒井与志久理事長）

が運営する事業所は、就労継続支援B型と放課後等デイサービスを併せ持つ。障害者の労働の場を確保しようとして「農福連携」に着目。上山市が進めるワインの郷プロジェクトに参加し、2017年度から同市小六地区で栽培するナイアガラを使い、ワインを生産してい

る。

今年は9月に約2・5トンを収穫し朝日町ワインに醸造を委託、720リットル入り1500本を造った。香りと酸味のバランスが良い爽やかな辛口の白ワインで、アルコール度数は12%。また昨年度から上山産のマスカットベリーAを使い同社が造った赤ワインを購入して販売、さらに本年度初めてシャルドネを使ったワインの試験醸造を行った。

荒井理事長と安部施設長らが市役所を訪れ、横戸市長に「今年は糖度が高く良いブドウを使うことができた。3年後をめどに上山の街中にワイナリー設立を目指しており、協力をお願いしたい」などと語った。ワインは同事業所で販売しており、720リットルで2千円。問い合わせは「ふあーすと・すてっぷ」023（665）5981。

（長瀬亮）



横戸長兵衛市長（左端）にワインの完成を報告する荒井与志久理事長（右端）たち = 上山市役所